

安全・便利で経済的な 次世代インフラの構築について

平成25年4月17日

国土交通大臣 太田昭宏

- インフラの急速な老朽化時代を迎え、非破壊検査技術等の新技術やITの活用により、維持管理・更新システムを高度化し、インフラ管理の安全性、信頼性、効率性の向上を実現。
- これにより、新たな市場の創出、国際競争力の向上、パッケージ型インフラ輸出の拡大に寄与。

老朽化対策の全体像

⇒3月21日老朽化対策会議とりまとめ(随時見直し)

総点検・修繕

維持管理の基準・マニュアルの改善・明確化

維持管理情報のプラットフォーム構築

新技術導入、既存技術の横断的活用

地方公共団体への支援

維持管理等の担い手支援

体制・法令等の整備

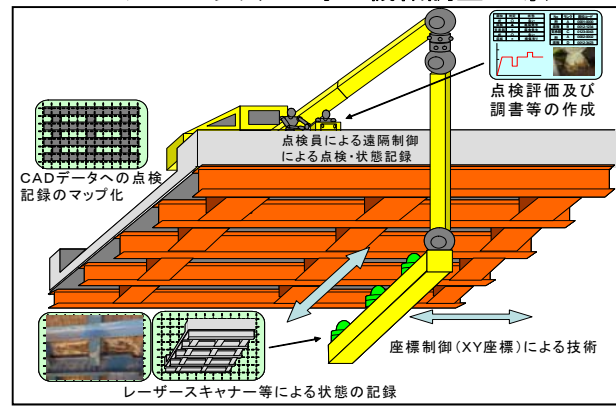
長寿命化計画の推進

維持管理・更新のPDCAサイクルの構築
トータルコスト縮減・更新費平準化

IT等を活用した先端的インフラ管理のイメージ

◆非破壊検査技術の開発・導入・普及

➢レーザースキャナー等の機械調査の導入

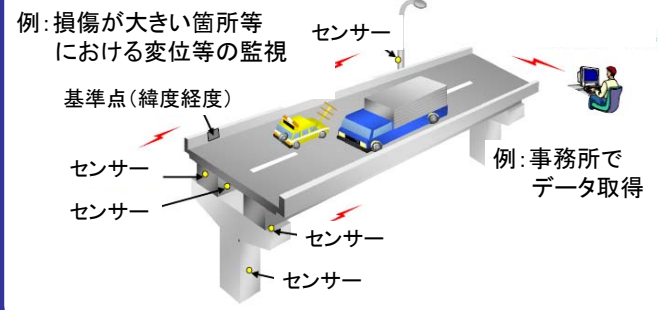


➢モバイルマッピングシステムによる効率化

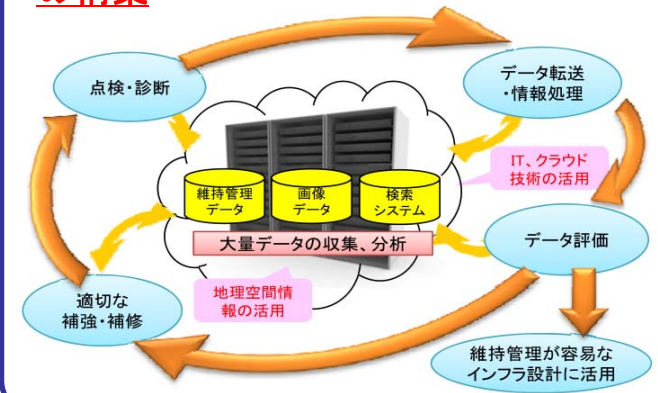


取得データより、堤防の変状、沈下等の恐れのある箇所を絞り込み

◆IT等を活用したインフラモニタリングシステムの構築



◆維持管理・更新情報のプラットフォームの構築



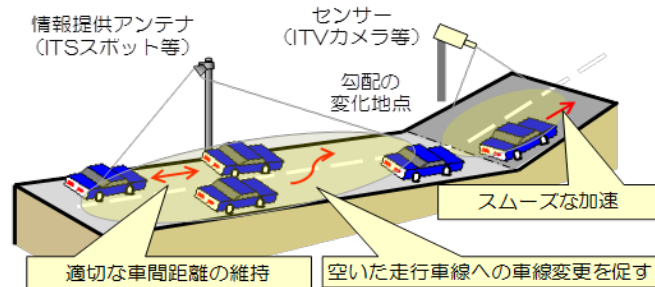
- ITS技術の更なる高度化を推進し、交通渋滞の緩和や交通事故を削減。
- ICT活用による歩行者移動支援サービスを提供する取組を支援すること等により、高齢者や障害者をはじめ、誰もが安全で効率的に移動できる環境を実現。

◆ITS技術の更なる高度化 ITS(Intelligent Transport Systems) :高度道路交通システム

- ETCやGPSなどのITS技術を活用して、複数の高速道路を利用する交通にも対応する料金制度の構築や、高速道路以外の施設(駐車場等)でも利用可能な仕組みを構築することにより、シームレスで利便性の高い車社会を実現。
- ITSスポット※1等からの情報提供と車の自動制御(ACC※2)との連携などITS技術の更なる高度化を推進することで、渋滞緩和や交通事故削減を図る。

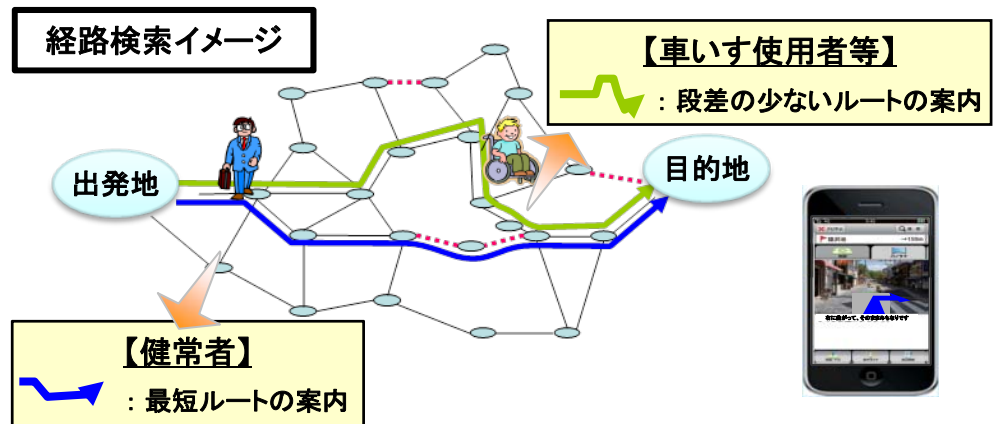
※1 路側の情報提供装置により、ダイナミックルートガイダンス(広範囲の渋滞データを配信し、カーナビが賢くルート選択するサービス)や安全運転支援、ETCなどのサービスを提供

※2 ACC (Adaptive Cruise Control) : 自動で車速や車間制御を行う機能



◆ICTを活用した歩行者移動支援

- 歩行者移動支援サービスとして、各利用者ニーズに応え、スマートフォン等で直接に移動経路や地域情報、観光情報等を提供。
- 今後、視覚障がい者に対するサービスや災害時の情報提供について、検討を推進。



ビッグデータやICTを活用した便利な生活

- エネルギー利用の最適化やICT活用による高齢者支援等を推進し、スマート住宅・スマートシティを実現。
- ビッグデータをICTにより収集・分析することで、個人の移動ニーズを正確に把握し、新たな交通サービス等を創出。

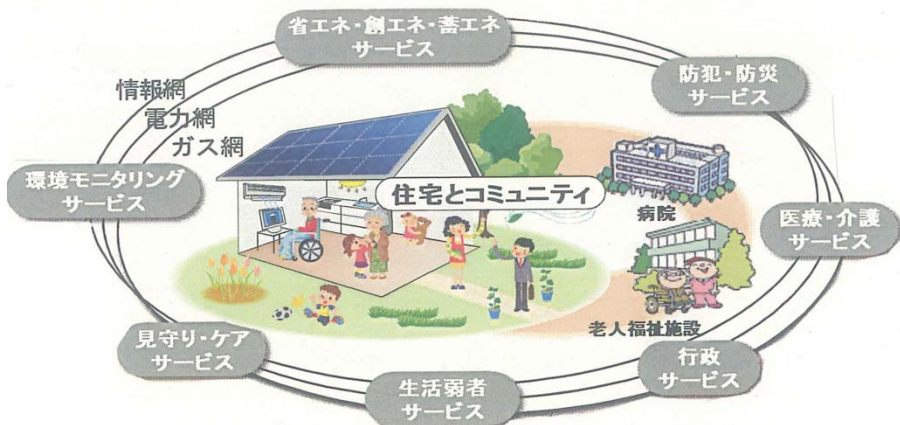
◆スマート住宅・スマートシティの実現

▶エネルギー

- ・ HEMS※の活用等による省エネ・創エネ・蓄エネの統合・最適化 等
※ HEMS(へムス、home energy management system) 住宅のエネルギー管理のためのシステム

▶暮らし・生活

- ・ ICTシステムを活用した健康管理等による高齢者の見守り・生活支援
- ・ 公共交通の導入等による歩いて暮らせるまちづくり 等



◆ビッグデータとICTの活用による新サービスの創出



新サービスを創出し、公共交通型都市を構築

